

育友会だより

中1 環境研修

平成24年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、今年度より新たに第Ⅲ期として、研究開発目標に「“里山発”豊かな探究心を持ち、次代を創造する科学技術人材の育成」を掲げられています。これからの活動の充実を図るため、入学して初めての環境研修が行われました。当日は天候にも恵まれて、各クラス多くの発見や経験をすることができました。生徒にとって“里山”環境を知る素晴らしい学びの日となりました。

養父志乃夫先生の講義

（和歌山大学システム工学部・本校SSH運営指導委員）

環境問題を解決するために必要な知識をつけ、自然と親しみながら、解決すべき問題にどのようにアプローチするかを学ぶ。

「懐かしい風景には、新しい未来への科学が詰まっている。」

里山はすべての生活、文化に繋がっている。絶滅危惧種を野生化再生したり、木で電気を作る再生可能なエネルギーなど。

「里山には無駄なものはない。」

「皆さんの生活を守っていくには、里山の仕組みを見直すことと、里山を守っていくこと。」

先生の講義を熱心に聞いた後、先生からのメッセージを心に留め、各クラスのテーマに分かれて活動しました。



A組



A組は、森の中の植物の観察とため池の水路修復を行いました。
ため池には災害時に氾濫を防いだり生き物のくらしを支える役割があります。
土砂が溜まるとため池の環境が悪くなってしまうので、皆でスコップとバケツを使い土砂を運び出しました。



ニホンハッカの葉っぱはにおいがスースーする！



沢山の土砂を入れたバケツは重い～



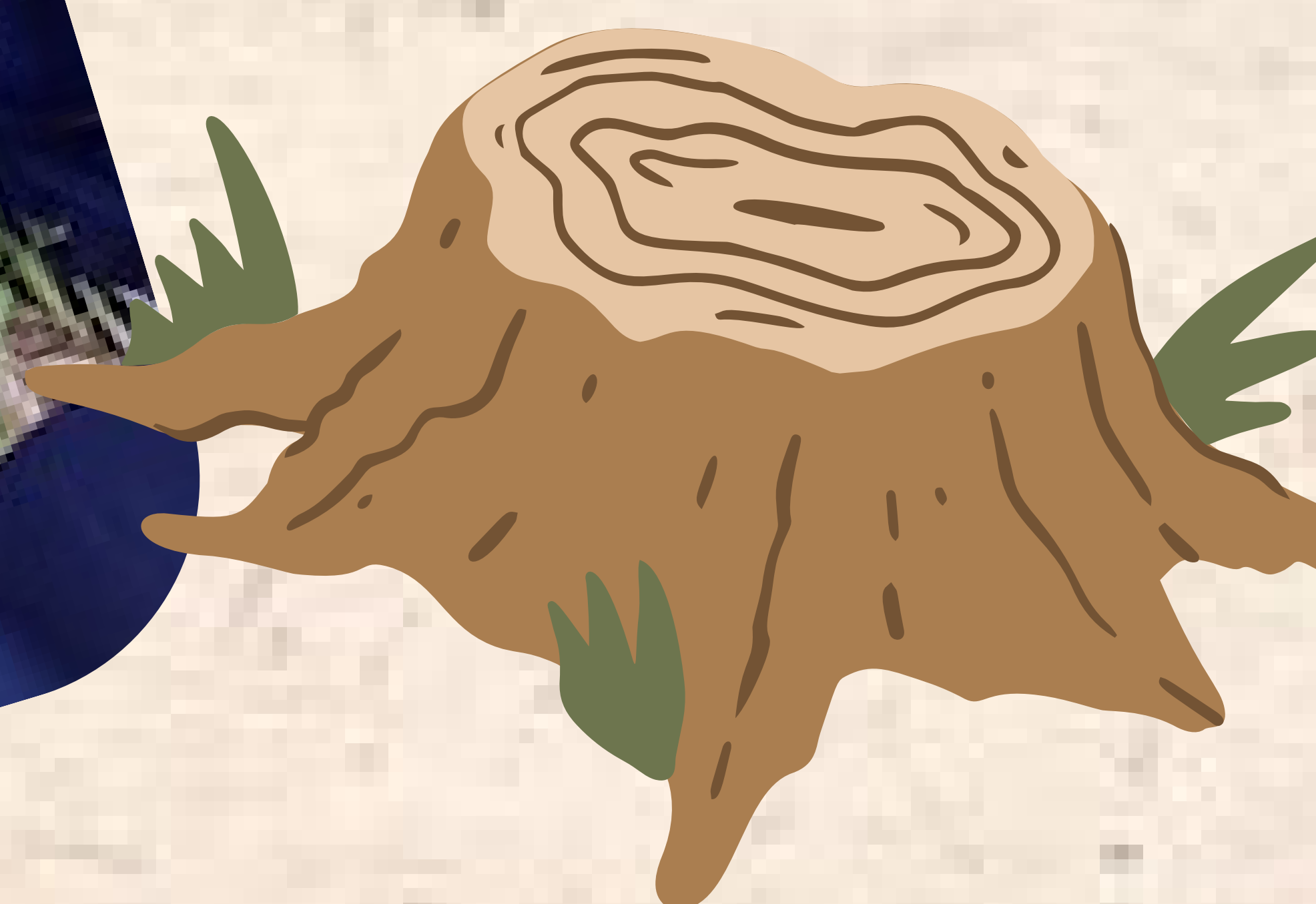
B組

B組は、里山の環境について学びました。
樹木が伸び過ぎ覆い繁ると、地面の方まで日光が届かないので枝を適度に伐採し、若い芽が育つように間引きをします。
また里山の環境は人だけでなく、虫や菌たちによっても保たれていることも学習しました。

ノコギリは引く時だけ
力を入れる！

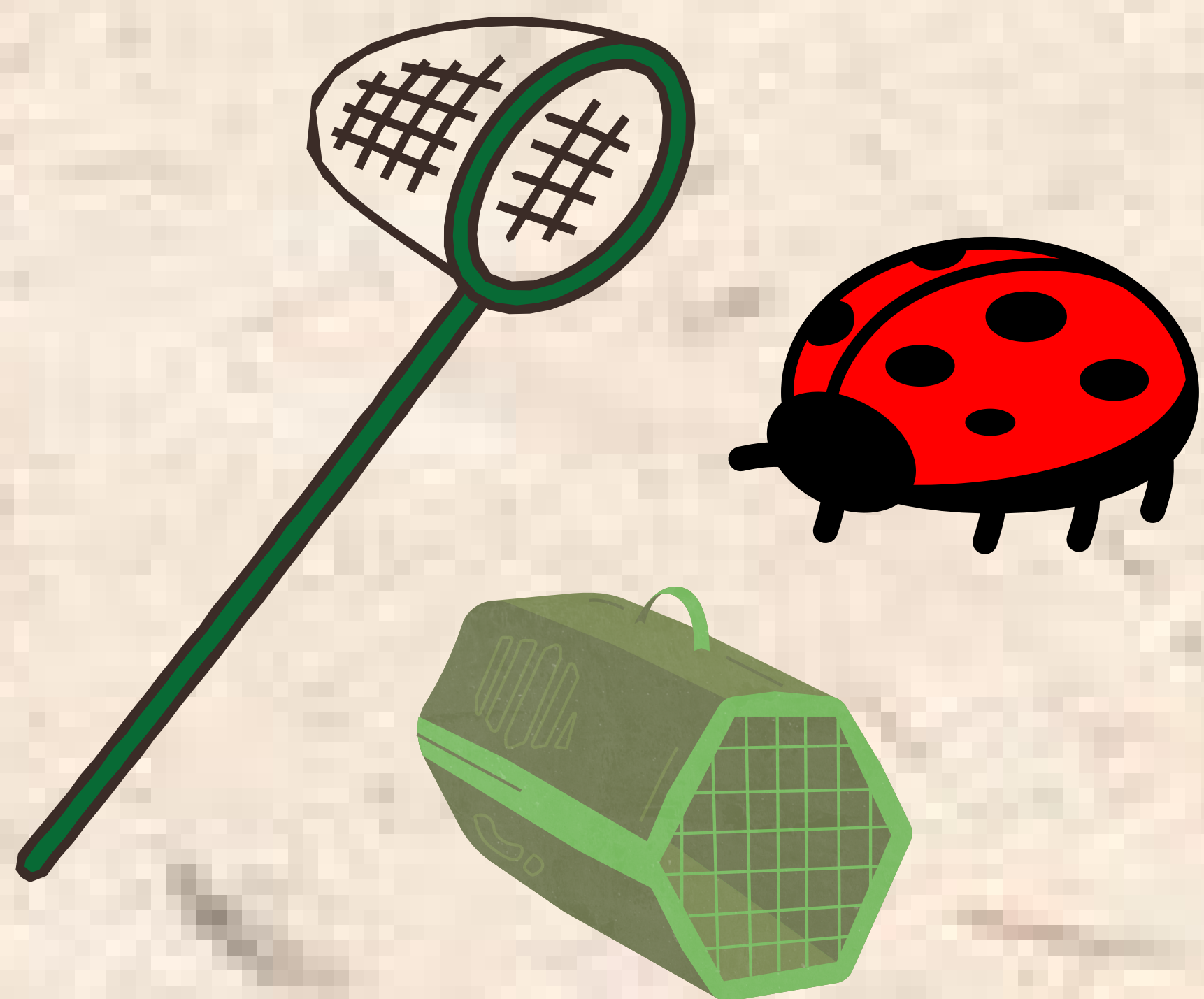


森の分解者のおかげで
土がふかふか！

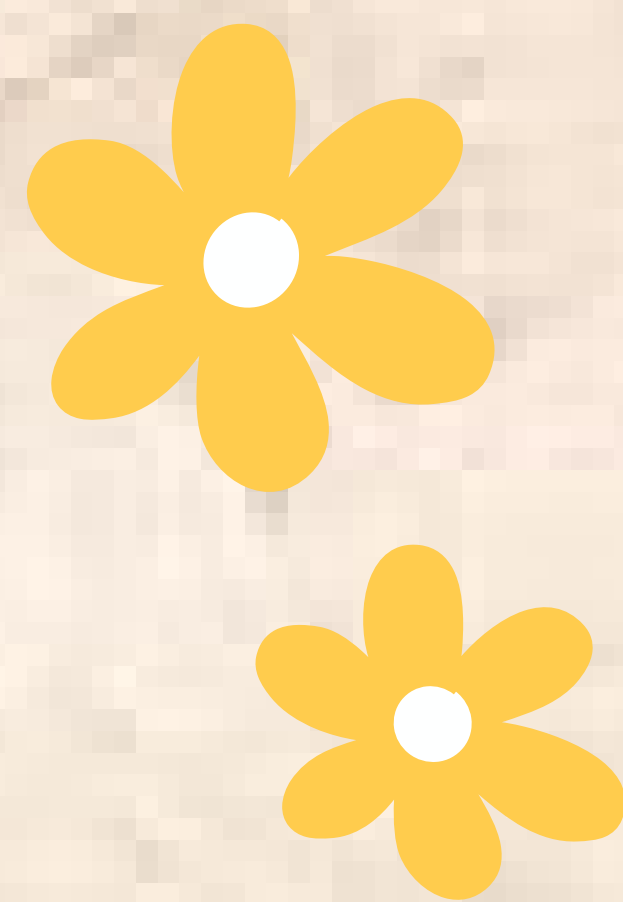


C組

C組は、棚田周辺に生息する生き物を観察し、自然の営みについて学びました。棚田では様々な生物と遭遇し、中にはオニヤンマといった希少なものもありました。その上流ではビオトープ、そのまた奥にはコナラ林再生の試験的な取り組みを行っており、3学期には一人一本のコナラ原木に椎茸の植菌をして数年かけて栽培します。



虫いっぱい
いるかなあ♪

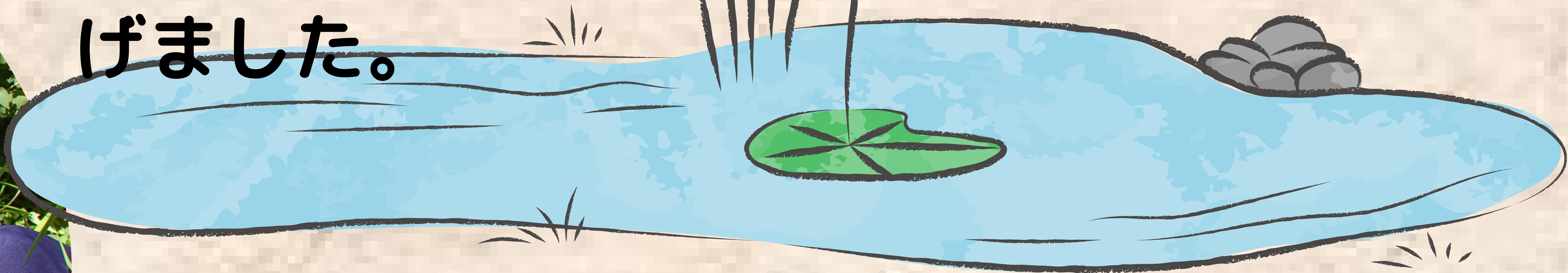


泥に踏み込んだ…



D組

D組は、ゲンジボタルが生育できるように環境修復の作業をしました。
ホタルの餌であるカワニナは小さい貝なので、流されてしまわないよう緩かな水路にするため土嚢を作って置きました。
今いるカワニナは回収して、上流に戻してあげました。



土嚢が
重たい〜！



カエルも
いっぱいいる！



編集後記

里山を再生して生き物が住みやすい環境を取り戻すことを目的とした今回の環境研修。自然大好きっ子の多い本校生徒の皆さん。とても楽しそうにわいわいと活動する姿が印象的でした。初めて見る里山や今後の高校での本格的なSSH活動の一部を知ることができ、保護者にとっても大変貴重なひと時でした。たくさんの先生方やスタッフの方々、ご指導を賜りまして、ありがとうございました。

中学1年 学級委員一同